

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護の基本Ⅲ Fundamentals of Care III		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の学生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
介護の基本Ⅰ・介護の基本Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
介護福祉士養成課程必修科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
中島 佳子	栄養棟3階	授業以外の時間		授業中に指示します
授業の概要				
<p>「尊厳の保持」「自立支援」を理解するとともに、「介護を必要とする人」を「生活する人」として捉えるための学習である。一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣などを理解し、「その人がその人らしく生きることを支援する」こととは何かについて具体的に学び、その実践力の習得を図る。</p>				
授業の目標				
<p>①その人の「暮らし」「価値観」「意識」「生活様式」「習慣」などの多様性・複雑性を理解し、説明できるようにする。 ②高齢者及び障害のある人の生活の実際とその生活環境を理解し、説明できるようにする。 ③高齢者及び障害のある人への生活支援の必要性を理解し、説明できるようにする。 ④高齢者および障害者に提供される介護サービスの具体的な内容を理解し、説明できるようにする。 ⑤介護福祉士として、総合的・客観的に対応できる能力と洞察力を身につけることができるようにする。</p>				
授業の方法				
<p>テキストと視聴覚教材、関連資料を使用した講義方式とする。毎回リアクションペーパーを記入させ、授業の振り返りと知識定着を図る。理解を深めるため、演習も取り入れる。その際には、ミニレポートを課し、評価対象とする。</p>				
学習の成果（学習成果）				
<p>①利用者の気持ちに沿った支援を展開していくことができる。 ②利用者の「価値観」「意識」「生活様式」「習慣」などの多様性・複雑性を具体的に説明できる。 ③介護サービスの具体的な内容を把握し、サービスに対応できる能力と洞察力を養えることができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業のねらいと進め方・成績評価方法・授業中の留意点など）			
第2回目	その人らしさの理解：生活史・生活習慣・生活様式（生活文化）・生活リズムなど			
第3回目	高齢者、障害者の共感的理解① 相手の立場になってみること【ミニレポート】			
第4回目	高齢者、障害者の共感的理解② 相手の立場になってみること			
第5回目	多様性と複雑性の理解：価値観の多様性（生活観など）・役割意識・他者と社会とのつながりなど			
第6回目	高齢者や障害のある人たちの暮らしの実際と理解：家族の機能と役割・健康・生活など			

第7回目	介護サービスの意味とその特性について①	その人らしく生きることとは「バイステックの7つの原則」
第8回目	介護サービスの意味とその特性について②	これからの課題「バイステックの7つの原則」
第9回目	ICFの視点に基づくアセスメント①	介護におけるICFの考え方
第10回目	ICFの視点に基づくアセスメント②	ICFの視点と観察の視点
第11回目	生活環境の理解①	家族・地域・社会との結びつき 社会資源について 【ミニレポート】
第12回目	生活環境の理解②	施設におけるハード面とソフト面について
第13回目	生活障害の理解と生活ニーズ①	生活障害とは・関係性の障害について
第14回目	生活障害の理解と生活ニーズ②	ニーズとは何か・生活のニーズについて
第15回目	学習のまとめ	国家試験対策
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	以下の視点で判断する。履修上の留意点を遵守し、遅刻なく準備を整え授業に臨み、必要なことはノートを取り、学んでいること。周りに迷惑をかけるような態度は、減点対象とする。
レポート	10%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、テーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	選択、記述式の理解確認の試験を行う。。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
最新・介護福祉士養成講座 第3巻「介護の基本Ⅰ」および第4巻「介護の基本Ⅱ」中央法規出版		
履修上の留意点・ルール		
私語、携帯電話の使用を禁止します。授業に関係のないもの（携帯電話、食べ物、飲み物、化粧品、手帳）はかばんにしまうこと。 資料のデジタル化を禁止します。他の受講生に迷惑をかける行為があった場合には、退出を求めることがあります。		